

# 緩 和 ケ ア 便 り

日頃、緩和ケアチームにご支援・ご協力いただきまして、本当に有り難うございます。  
平成28年6月18日、19日、京都で行われた「第21回日本緩和医療学会学術大会」に当院緩和ケアチームも参加してきましたので、その概要と様子をご報告致します。

## 緩和医療学会の概要



日本緩和医療学術大会は、年に一度、緩和ケアに携わる医師及び医療従事者が一堂に会し、日頃の研究・診療・教育の成果を発表するとともに、緩和医療に関する最新の知識と情報を交換・発信する場です。がんやその他の生命にかかわる重篤な病気の全過程における人々のQOLの向上を目指し、学術的研究と臨床的実践を通して、国民の健康と福祉の増進を目的として開催されています。

今回の学会はポスター発表の形式が変わり、e-ポスターという形式で、参加者はパスワードを入力したら自分のパソコンやタブレット端末で閲覧するのみとなりました。発表は不要のため、少し物足りない感じでした。当院の緩和ケアチームも「当院における 苦痛のスクリーニングへの取り組みと現状」というタイトルでe-ポスターで演題報告してきました。

## なぜ、苦痛のスクリーニングを実施するの？ (生活のしやすさに関する質問表)

厚生労働省は「新たながん診療提供体制」を取りまとめ、2015年4月からのがん診療連携拠点病院等の認定に際して、患者とその家族などががんと診断されたときから身体的・精神心理的・社会的苦痛などに対して適切に緩和ケアを受け、こうした苦痛が緩和されることをめざすことを目標として、がんと診断されたときからの緩和ケアの導入をより一層強く求めることとなりました。その中で、「がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的苦痛等のスクリーニングを診断時から外来及び病棟にて行うこと」が求められており、スクリーニングの実施が2015年4月からのがん診療連携拠点病院等の認定要件の一つとなっています。スクリーニングは厚労省の施策であり、がん診療拠点病院の指定条件です。

苦痛のスクリーニングはがん患者さんと、ご家族の抱える、様々な苦痛の拾い上げに役立つツールとなっています。苦痛に対する早期対応のため是非活用いただけたらと思います。また、使用方法などのご不明な点があれば、遠慮なく緩和ケアチームにご相談下さい。

今回の学会では、苦痛のスクリーニングとガイドライン改訂に関するシンポジウムが目白押しでした。

ガイドラインに関しては、呼吸器症状、泌尿器症状、補完代替療法のガイドラインが改定されました。興味のあるかたは、是非、日本緩和医療学会のホームページから閲覧くださればと思います。

## 当院における 「苦痛のスクリーニング」への 取り組みと現状

JA秋田厚生連  
平鹿総合病院 緩和ケアチーム

武田 郁央\*、奥山 奈穂子、中村 昌子  
高橋 卓太、中島 範子、齋藤 礼次郎

当院では、昨年度5月1日より苦痛のスクリーニングを導入しました。昨年度は89人のがん患者に実施され、そのうち緩和ケアチームへの紹介は21名でした。

スクリーニングの対象は、がんの診断がなされ、告知されている患者さんです（検査入院は除きます）



納涼床でお疲れさん会をしました